

学力調査			
	成果が見られる設問	課題が見られる設問	課題への主な改善策
国語	・資料を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように話すことができる。 ・文章と図を結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 ・文章の全体と部分との関係について理解している。 ・目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみることができる。 ・目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 ・文の成分の順序や照応について理解している。 ・文脈に即して漢字を正しく書くことができる。 ・表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 ・表現の技法について理解している。 ・短歌の内容について、描写を基に捉えることができる。	・必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる。 ・意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ・話合いの話題や展開を抑えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる。	・条件を明確にした課題の設定と、条件を満たして解答することができたかを確認する活動の設定する。 ・情報を発信する場面において、相手や目的に応じて、伝え方を見直し、改善する場を設定する。 《授業での具体例》 ①授業の課題設定につながる内容を確し、「伝えたいことを伝えるための工夫が必要である」との課題意識を醸成する。 ②課題の解決の手がかりとなる表現の工夫の例を確認すると共に条件を明らかにする。
数学	・簡単な場合について、確率を求めることができる。 ・問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる。 ・与えられたデータから最頻値を求めることができる。 ・二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができる。 ・グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができる。	・連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができる。 ・等式を目的に応じて変形することができる。 ・回転移動について理解している。 ・一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解している。 ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。 ・統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができる。 ・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 ・複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができる。 ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。 ・筋道を立てて考え、証明することができる。 ・事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができる。	・問題を解決する過程を振り返ったり、得られた結果について考察したりする場を設定する。 ・授業の導入場面において、生徒の問題意識を引き出し、事柄や数量の関係を捉える活動の設定をする。 ・問題を解決するために必要な情報を見つけたり、よりよい解決方法を判断したりする活動を設定する。 ・図や式など、数学的な表現を用いて説明したり、根拠等を明らかにして説明したりする活動の場を設定する。 《授業での具体例》 ①生徒の問題意識を高めてから問題を設定したり提示する。 ②生徒が図や式などを根拠にしながら自分の考えを表現する機会を設定する。

質問調査
◎全国平均より高い ▲全国平均より低い
○肯定的な回答の割合が90%を超える設問 ・先生は、よいところを認めてくれている。◎ ・人が困っているときは、進んで助けている。◎ ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。▲ ・友達関係に満足している◎ ・ICTを活用してわからないことがあった時に、すぐ調べることができる。◎ ・学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができる。◎ ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれると思う。◎ ・授業や学校生活は、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。◎ ・学級生活をよりよくするために学級活動で話合い、お互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。◎ ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。◎
●肯定的な回答の割合が60%を下回る設問 ・新聞を読んでいる。▲ ・1,2年のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。▲ ・1,2年の時に受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝える活動が行われていたと思う。▲
■メディア利用に関する設問 ・普段、ゲームを1日2時間以上をする。▲ ・スマホの使い方について家の人との約束を守っている。◎
■「主体的・対話的な学びに関する質問」 ・1,2年生の授業でのICT機器の活用を楽しみながら学習を進めることができる。ICT機器を活用し、自分の考えた意見をわかりやすく伝えることができる。▲ ・1,2年生の授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していた。▲ ・わからないことや詳しく知りたいときに、自分で学び方を考え、工夫することができる。◎ ・1,2年生の授業では、課題の解決に向けて、自分え考え、自分から取り組んでいた。◎ ・1,2年生の授業で、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた。◎ ・学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができた。◎ ・学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができた。◎ ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができた。◎
成 果 ◎授業等の話合い活動や、考えを深めたり新たな考え方に気づく活動をするなど、学びを深める活動において大きな成果が出ている。
課 題 ▲将来への夢や目標をもてるキャリア教育の充実。 ▲家庭でのメディア時間。 ▲悩みを打ち明けやすい環境の設定。 ▲ICTの活用の際は増えたので、さらなる効果的な活用方法の工夫。

学力向上に向けたロードマップ

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
カリキュラム・マネジメント	■教育課程の編成 ■実施/評価/改善										■年度末評価 ■教育課程の編成 ■実施/評価/改善					
学力・学習状況調査等の活用	■調査/自校分析 ■チャレンジテスト結果分析/改善策										■分析結果・改善策の共有 ■調査/自校分析					
授業改善	■主体的・対話的で深い学びの実践 ■各種研修会への参加										■教科指導研修 ■授業力向上プロジェクト/教育課程改善協議会（市教委） ■学びのカンケート					
学習習慣・生活習慣づくり	■「学習チェックシート」によるセルフマネジメント ■教育相談										■学習相談 ■教育相談 ■学習相談 ■教育相談 ■学習相談					

学力向上に向けた今後の取組

全教育活動の改善へ

- 主体的・対話的で深い学びを視点からの更なる授業改善
 - ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習過程の意識
 - ・見通しから課題の設定と共有、課題や解決方法の見通し
 - ・探究～自分で課題の解決、集団で課題の解決
 - ・振り返り～学んだ内容のまとめ、自他の変容、次の課題意識
 - ・「学習課題」と「まとめ」の正対を意識した、身につけさせたい資質・能力の育成
 - ・ICTを用いて、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」をアクティブラーニングの視点と合わせて実施することで確かな学力の育成。
 - ・学びのカンケート等を活用を含めたPDCAサイクルによる授業改善
- 望ましい学習・生活習慣づくり
 - ・「セルフチェックシート」の活用によるセルフマネジメントの育成
 - ・教科オリエンテーションによる家庭学習への取り組み方のガイダンス
 - ・ICTを活用した指導の個別化と学びの機会の確保